

近代活版印刷

～印刷技術の発展に貢献した本木昌造～



活版伝習所跡の碑
(長崎市興善町)



本木昌造
(長崎歴史文化博物館蔵)

新聞や雑誌、書籍など印刷にかかせない活字。

情報を大量かつ迅速に伝える手段として日本の近代化に大きく貢献した
活版印刷は、本木昌造によって長崎で確立され、全国に広がっていきました。

1590年、天正遣欧使節が持ち帰った活版印刷機は加津佐(島原半島)のコレジオ(神学校)に運び込まれ、日本で初めて金属活字を使った書物が印刷されました。その後も長崎や天草でキリスト教の教理書などが多数刊行されましたが、禁教令による宣教師の国外追放とともに印刷機や活字が運び出されるなか、これらのキリシタン版と呼ばれる印刷物のほとんどは消失してしまいました。

それから約250年後、途切れていたわが国の印刷文化に新たな命を吹き込んだのが本木昌造です。長崎で生まれ、オランダ通詞(通訳)として出島に出入りしていた彼は、早くから西欧の精巧な印刷技術にひかれ、念願の日本語活字

の開発に取り組みました。そして1869年、長崎活版伝習所を開設した昌造は、アメリカ人活版技師の指導を受けて日本語の鉛活字の鑄造に成功。翌年には長崎市内に新町活版所を開設し、活字鑄造と印刷業を始めました。また、経営感覚に優れた同郷の平野富二の協力のもと、東京に築地活版製造所を設立するなど、印刷業は大きく発展していきました。

こうして「近代活版印刷の始祖」として歴史にその名を刻んでいる昌造ですが、製鉄や造船などの分野でも多彩な才能を発揮して幅広く活躍し、52歳でこの世を去るまで日本の近代化に大きな貢献を果たしました。



本木種字(諏訪神社蔵)

「旅する長崎学」近代化ものがたり第一号で、本木昌造について紹介しています。

ながさき歴史発見・発信プロジェクト企画 『旅する長崎学』(定価600円、A5サイズ)
お問合せ先/長崎文献社 TEL.095-823-5247

長崎県の歴史と旅の遊学サイト『旅する長崎学』 <http://tabinaga.jp>

長崎県美術館

Nagasaki Prefectural Art Museum

企画展

ダニ・カラヴァン展

期間/12月6日(土)～1月18日(日)

周囲の環境との調和を図る大規模な立体作品を生み出し、環境彫刻家として世界的に知られるダニ・カラヴァン(1930～)。

世界初公開を含む初期の絵画や舞台美術、壁画、世界各地で制作した環境彫刻を模型や映像などで紹介します。



ダニ・カラヴァン《三連画》1960年代
ハナ・マーロン・レヒター氏蔵 テル・アヴィヴ

毎月第2・第4月曜日(休日・祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/1)は休館日
〒850-0862 長崎市出島町2番1号
TEL.095-833-2110

Webで [長崎県美術館](#) 検索

長崎歴史文化博物館

Nagasaki Museum of History and Culture

特別企画展

バチカンの名宝とキリシタン文化

—ローマ・長崎 信仰の証—

期間/11月1日(土)～1月12日(月・祝)

江戸時代初期に殉教した日本人カトリック信者188人の列福式が、国内で初めて長崎で行なわれます。この機会に、改めて長崎がたどったキリスト教の歴史を紹介します。日本初公開となるバチカン美術館の所蔵品をはじめ、国内外の美術・歴史資料約250点を展示します。



フラ・アンジェリコ《聖母子像》
(バチカン美術館蔵)

毎月第3火曜日(祝日の場合は翌日)は休館日
〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL.095-818-8366

Webで [長崎歴史文化博物館](#) 検索